

5 概 況

水道事業会計の業務実績を見ると、当年度の給水人口は水道事業が 42,653 人、鶴形簡易水道事業が 555 人で、給水区域内の普及率は水道事業が 94.7%、鶴形簡易水道事業が 96.2%となっている。また有収率は、水道事業が 86.6%で前年度比 0.1 ポイントの増、鶴形簡易水道事業が 89.2%で前年度比 3.4 ポイントの減となっている。詳細については、「6 業務実績について」に記述している(P4～5)。

経営成績を見ると、当年度純利益は合計 166,523,744 円で前年度に比較して 1,837,132 円(1.1%)の減となった。当年度は、減価償却費の増による営業費用の増、長期前受金戻入の計上による営業外収益の増、職員賞与引当分の計上による特別損失の増等、各科目で会計制度見直しによる影響があったが、最終的な純利益は前年度並となっている。詳細については、「7 経営成績について」に記述している(P6～12)。

財政状況を見ると、資産では現金預金等の増により流動資産が増えた一方、固定資産は会計制度の見直しにより、減価償却分が増え、前年度に比較して 1,933,360,097 円(14.0%)の減となっている。また、負債では企業債や繰延収益が新たに計上されたことにより 8,925,147,622 円(7,517.5%)の増となっており、資本では借入資本金、資本剰余金が負債へ移行処理されたことにより、10,832,399,971 円(76.5%)の減となっている。詳細については、「8 財政状況について」に記述している(P13～19)。

給水収益の収入状況を見ると、現年度分の収入率は水道事業が 98.1%、鶴形簡易水道事業が 98.3%となっている。繰越分の収入率は水道事業が 67.6%、鶴形簡易水道事業が 100.0%となっている。詳細については、「9 収入状況について」に記述している(P20)。